

第 65 回都市計画審議会における意見とその対応表

整理番号	意見	対応	修正前 (第 3 回審議会の配布資料)	計画書 (該当箇所のみ抜粋) ■■■追記・修正箇所
1	P32 緑の質に関する目標の文について、目標よりも方法論が中心となる印象がある。 (修正文提案あり)	ご指摘のとおり、従前の記述は方法論が中心となっていたため、地域特性や都市構造、市民意見を踏まえた「緑の質の向上」を目標として整理しました。 なお、達成状況については、市民アンケートにより把握することとしています。	緑の質の向上を高める取り組みを推進していく必要があることから、今後、まちづくり市民アンケート調査において、緑の質に関する満足度を伺うことで、緑の質に関する評価を行います。	<u>地域特性や都市構造、市民意見などを踏まえ、多様な都市空間に応じた緑の質の向上を図ることとし、市民アンケートにより達成状況を把握することとします。</u>
2	P52 (4)回遊性を高める緑のネットワーク形成の文について、風の通り道よりも暑熱緩和効果がメジャーではないか。また、市として高齢者の健康増進を意識している思いを反映させてはどうか。 (修正文提案あり)	ご意見を踏まえて、提示いただいた修正文に修正しました。	都市公園や公共施設緑地、河川・海岸沿いの空間などは、相互につながることで、より高い利用価値を発揮します。回遊性のある緑の形成は、市民の歩行や交流を促進し、都市の魅力向上につながるとともに、 <u>風の通り道となりヒートアイランド現象の緩和や歩行者環境の改善につながります。</u>	都市公園や公共施設緑地、河川・海岸沿いの空間などは、相互につながることで、より高い利用価値を発揮します。回遊性のある緑の形成は、市民の歩行や交流を促進し、都市の魅力向上につながるともに、 <u>暑熱緩和効果による心地よい歩行環境や健康上の効果が期待できます。</u>
3	P59 「基本方針 3 緑をつなぐ」ための施策の方針の文について、樹木の劣化による倒伏・落枝も考慮しないと緑の質を高めることはできないので、コスト削減が景観価値の低下へ結びつかないようにする配慮から「バランス」を入れてはどうか。 (修正文提案あり)	ご指摘を踏まえ、提示いただいた修正文に修正しました。	<u>樹木の成長による樹勢の拡大や落ち葉の増加といった、地域の管理負担増加などの課題を踏まえ、緑が管理や利用を通じて継続的に活かされ、地域に根づいた存在として次世代へ受け継がれていくよう、関与の仕組みづくりや利活用の促進を図る視点を基本として施策を展開します。</u>	<u>樹木の成長や劣化に伴う緑地の安全性や快適性の持続と地域の管理負担のバランスを踏まえ、緑が管理や利用を通じて継続的に活かされ、地域に根づいた存在として次世代へ受け継がれていくよう、関与の仕組みづくりや利活用の促進を図る視点を基本として施策を展開します。</u>